

# 業務生産性を向上させるクラウド&ロボット活用

～ エコルド箕面西小路教室／株式会社D-SUPPORT-INNOVATION ～

## 【ICT導入のきっかけ／感じていた課題】

障がい児通所支援事業に限らず福祉業界では、まだまだアナログな面が多いのが現状です。例えば、保護者への連絡帳の手書き処理や実績記録票の手書き押印処理、さらに勤怠管理や国保連への請求業務に伴う事務作業などに多くの時間を割いており、児童発達支援管理責任者を含めた現場スタッフ全員にかかる事務負担は相当に大きく、本来の仕事である子どもたちへの療育にかかわるために必要な時間が十分とれないことに問題意識を持っていました。

### <ICT導入のねらい>

ICT導入により、職員の負担最小化と療育の質の向上を図る

## 【ICT導入事例】

### (1) 顔認証による出退時間の記録

業務効率化のための自社開発のクラウドサービスと人型ロボットをインターネットで接続させ、子どもたちの利用開始と終わりに顔認証を使用して利用時間を自動入力しています。

顔認証で個人を特定し、入退時間・おやつの有無・送迎の有無がクラウドサービスに自動反映されます。その後は連絡帳、実績記録をパソコンやタブレットで完成させ、保護者に配信します。



### (2) 人型ロボットを活用した支援

当教室では幼児向け手遊び歌やダンスソングをロボットが歌いながら踊ります。ロボットが子どもたちと一緒に歌ったり、踊ったりしている間、先生は子どもたちの運動面のフォローをするだけでなく、子どもたちをしっかりと見て普段の訓練の効果を確認することができ、子どもたちひとりひとりの特徴に応じた、個別支援の充実に繋がっています。

## 【ICT導入による効果など】

### ▶ 職員の負担最小化の実現

紙への手書きによる事務作業の場合、修正が効きにくいことや文字の丁寧さを意識するあまり事務作業にかかる時間が多くなり、さらに保護者も若い世代が多いですし、職員も若い世代の場合には「デジタルネイティブ世代」のため、パソコンやスマートフォンの操作の方が扱いやすく、ICTを活用する方が作業も早い傾向にありました。

例：事務作業時間が月間68時間以上の削減になりました

※管理者、保育士などが従来日常的に行っていた事務作業（実績記録や請求事務などにかかる時間）に対して同じ事務作業をICT導入により自動化したことで削減できた時間（月間）を算出したもの

### ▶ 療育の質の向上

AIなどの活用で自動入力できることで作業時間が削減でき、それによって職員は子どもひとりひとりの特性に応じた個別支援を実現できるようになりました。

例：子どものアセスメント評価を逐次データで見直しができたり、請求業務の時期であっても児童発達支援管理責任者を含めて各職員が事務作業に追われることはなく、職員同士のミーティングや保護者面談に時間を割くことができるようになりました。

また、弊社では、現場で感じた課題をもとにシステムを自社開発しました。このシステムの導入により、事務業務時間の大幅削減、保護者様の負担軽減など顕著な効果が見られました。さらにシステムで日常的な事務を自動化することによって、実績などの記録や記載のミスが大幅に減り、記載内容の見直しにかかる時間や修正にかかる時間を大きく削減できました。

## 【現場の声】

当教室でICT、ロボットなどを導入するにあたり、現場の先生たちに使うことの抵抗感を減らすことを大事にしていました。例えば、どんなに良いICT機器やロボットを導入しても先生たちが使ってくれなければ単なるコストでしかなく、場合によっては日常業務にこれまでの負担を強いることとなります。そこで普段から導入にあたり大事にしていたのは現場の先生や保護者からの疑問、お困りごとには可能な限り素早く回答したり、アドバイスしたり、一緒に操作したりして絶対に孤立させないようにしていました。

最初は「えー、療育にロボットって微妙ー」と思ったスタッフもいたかもしれません。ただ、それは使った経験がないからハードルが高そうに見えるだけとか、実際に触った経験がないから過ぎません。新しいものに対してはみんな抵抗感が生まれます。しかし、スマートフォンのように説明書がないにも関わらず買ったその日から皆さんは当たり前前にICT機器を使っていると思います。きっと20年前は想像もしなかったのではないのでしょうか。